

東京
肝臓のひろば

令和6年(2024年)12月号 第263号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合4-27-5-201
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会
<http://www.tokankai.com>



彦根城 佐和口多聞櫓 ～滋賀県・彦根市～ 切り絵・佐藤廣士さん

World Hepatitis Alliance

「HEP CAN'T WAIT EAST ASIA WORKSHOP
～肝炎は待ったなし東アジアワークショップ～」に参加！

11月23日(土)、24日(日)に東京品川で開催された、World Hepatitis Alliance(世界肝炎同盟、以下WHA)主催の「肝炎は待ったなし 東アジアワークショップ」に参加しました。昨年7月に香港で開催されたアジアワークショップ(「東京肝臓のひろば」255号にて報告)の東アジア版です。今回は、中国、香港、韓国、台湾、日本から専門医、患者団体等総勢23名の参加となりました。日本からは、国立国際医療研究センター肝炎免疫センター、情報センター長の考藤達哉先生、広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授の田中純子先生、佐賀県ロコモディカル総合研究所所長の江口有一郎先生、東京肝臓友の会の米澤4名が参加しました。昨年の香港大会は私ひとりの参加だったため、患者団体として、また日本代表として国の肝炎対策等の説明を求められることもあり肩の荷が重かったのですが、今年にご担当の先生方がおられ大変心強かったです。

今回の東アジアワークショップは、「B型肝炎の完全治療に向けて」「C型肝炎の撲滅」「ギャップを克服して肝炎撲滅を目指す」「肝炎と肝がん」という4つのテーマについて参加者がそれぞれ発表し、その後ワークショップやブレインストーミングを行う、という構成でした。考藤先生は国内の肝炎対策について、田中先生は国内の肝炎疫学調査について、江口先生は佐賀県で成功した肝炎医療コーディネーター制度についてお話しされました。私は今回C型肝炎患者としての療養体験、患者が考えるC型肝炎の課題についてお話ししました。日本の肝炎対策は東アジアの国々と比較すると、予算も含め群を抜いていますが、診療連携や偏見差別の解消などまだまだ足りない部分もあります。WHOとWHAが唱える「2030年までに肝炎ウイルスを排除する」という大きな目標に向けて患者団体として何ができるか、今後やるべきことを再確認できた2日間となりました。

写真は江口先生とともに参加した江口病院所属の肝美(かんみ)ちゃんと主催者と参加者全員です。肝美ちゃんはアジアの皆さんにも大人気で、一緒に写真を撮りたい!と引っ張りだこでした。



もくじ | Index |

東京肝臓のひろば 263

2 WHA (World Hepatitis Alliance)
「Hep Can't Wait East Asia Workshop」に参加して

3 第12回世界・日本肝炎デフォーラム
「ウイルス性肝炎について考える～B型肝炎の最新情報とC型肝炎SVR後に注意すること」
講師 国立病院機構長崎医療センター名誉院長
長崎県病院企業団企業長 八橋弘先生
・質問大会

27 ジコメン・メディカル

28 PBC・AIH・PSC通信

30 情報BOX
活動日誌(10月、11月)
患者会からの行事案内
医療講演会のお知らせ
同病者による面談相談ごあんない

第12回世界肝炎日本肝炎デーフォーラム 第2部 医療講演

ウイルス性肝炎について考える B型肝炎の最新情報と C型肝炎SVR後に注意すること

東京YWCA会館

日時:2024年7月28日(日)

講師:八橋 弘先生(長崎県病院企業団企業長 国立病院機構長崎医療センター名誉院長)

※文中敬称略

司会(米澤敦子) 第2部にご登壇いただく八橋弘先生のご紹介を簡単にいたします。1984年に長崎大学医学部をご卒業後、88年より国立病院長崎医療センターに勤務、97年には同院臨床研究部ウイルス研究室室長になられ、2004年には長崎大学大学院医師薬学総合研究科新興感染症病態制御学専攻肝臓病学講座教授に、12年には国立病院機構長崎医療センター臨床研究センター長になられています。22年には同院院長に、24年4月より同院名誉院長、長崎県病院企業団企業長になられています。

みなさんご存知だと思いますが、八橋先生は厚生労働省の偏見差別を解消するための研究班で代表をされています。最初に立ち上がった龍岡班が2011年に終了し、その後偏見差の解消を目指した研究班はどなたも引き受けにくく、7年前に八橋先生が研究代表となってくださり、現在も私たち患者とともに活動されています。

八橋先生にはこれまでも何度か講演をお願いしておりますが、たくさんの方のウイルス性肝炎患者を診られたご経験に基づいた講演内容は、私たちにいつも新たな知見を与えてくださいます。では八橋先生、よろしく願いいたします。(拍手)

八橋 みなさん、こんにちは。今日のテーマは「ウイルス肝炎について考える」です。最近、肝臓学会で取り上げる話題も「生活習慣」に関連したものが多く、「ウイルス肝炎」のテーマが以前に比べると少なくなっています。ただウイルス肝炎の方はまだまだたくさんおられるので、今日は「ウイルス肝炎」にフォーカスして、B型肝炎の最新情報とC型肝炎のウイルス排除後に注意することについてお話しいたします。

先ほど米澤さんにご紹介いただきましたが、実は私は愛媛県出身

です。長崎大学を卒業して、29歳から国立病院長崎医療センターに勤務し、65歳で退職しましたが、現在も長崎医療センターで外来を継続しています。ですから私の患者さんの中には最長36年間診ている人がいて、小学生だったお子さんが今では家族を持っていたり、中学生だったお子さんも2回結婚したりして(笑)、私は長く患者さんを診ています。

今日は最初にウイルス肝炎について、次にB型肝炎の最新情報、最後にC型肝炎についてお話しします(図1)。

ウイルス肝炎

まずはウイルス肝炎について。

肝炎ウイルスはA型、B型、C型、D型、E型と5種類あります(図2)。最初に発見されたのがB型肝炎で1964年です。今から60年前に発見されました。続いてA型肝炎が73年、D型肝炎が77年、E

型肝炎が78年に発見されて、最後に発見されたのがC型肝炎で89年、昭和の時代の終わりに発見されたということです。

感染経路ですが、A型肝炎とE型肝炎は食べ物や水を介して感染することから、誰しも感染する可能性があります。特殊な方を除いて基本は一過性感染です。B型肝炎、C型肝炎、D型肝炎は急性肝炎もありますが、慢性化すること

があります。慢性化すると肝硬変、肝がんになる可能性があります。5種類のウイルスの急性肝炎としての初期症状は似てはいるのですが、その後の経過は感染経路で異なると覚えると良いでしょう。現在、最も感染者の多い肝炎ウイルスは、実はE型肝炎です。A型・B型・C型・D型肝炎は、全て年間数千レベルと思われる報

告によるとE型肝炎の日本全体の新規感染者数は年間10万人です。ただその多くが無症状で不顕性感染です。E型肝炎の感染既往者の頻度は、20年前の報告では日本人全体の5%でしたが、それから20年経っているので7%を超えているのではないかと思われます。ウイルス肝炎の感染予防に有効なワクチンも市販化されています(図3)。B型肝炎ワクチンは

ウイルス肝炎について考える B型肝炎の最新情報とC型肝炎SVR後に注意すること

1. ウイルス肝炎
2. B型肝炎
 - 2-1. 診断と最新の疫学
 - 2-2. 新しいウイルスマーカー
 - 2-3. 新薬開発
3. C型肝炎
 - 3-1. 診断とHCV抗体価
 - 3-2. SVR後のコレステロール上昇
 - 3-3. SVR後の肝発癌と生命予後

図1

肝炎ウイルスの種類と感染経路と経過

肝炎ウイルス (発見年)	感染経路と経過
A型肝炎ウイルス (1973)	経口感染 -- A & E → 一過性感染で慢性化しない
B型肝炎ウイルス (1964)	経血液感染 - B, C, & D → 慢性肝炎 → 肝硬変 → 肝癌
C型肝炎ウイルス (1989)	
D型肝炎ウイルス (1977)	
E型肝炎ウイルス (1978)	→ 肝癌

血液で感染する肝炎ウイルス (B,C,D) は慢性化する

図2

肝炎ウイルスの種類とワクチンの有無

肝炎ウイルス (発見年)	ワクチンの開発、市販化
A型肝炎ウイルス (1973)	→ 1994年 市販化
B型肝炎ウイルス (1964)	→ 1985年 市販化
C型肝炎ウイルス (1989)	→ 研究中
D型肝炎ウイルス (1977)	→ 1985年 市販化
E型肝炎ウイルス (1978)	→ 開発中

ウイルスが発見されてワクチンができるまで約20年

図3

1985年に、D型肝炎にもB型肝炎ワクチンが有効なことから1985年に、A型肝炎ワクチンは94年に市販化されました。5つの肝炎ウイルスのうち3種類はワクチンがあることとなります。E型肝炎のワクチンの開発は進んでいるのですが、まだ市販化には至っていません。C型肝炎のワクチンに関しては長く研究されていますが、まだ研究の段階です。肝炎ウイルスが発見されてからワクチンがで上がるまで、約20年かかると考えられます。

B型肝炎

B型肝炎の診断と最新の疫学についてお話しいたします。B型肝炎が発見されたのは1964年、いまからちょうど60年前です(図4)。ブルームバーグ博士がオーストラリアの原住民の中から特異なタンパク、オーストラリア抗原を見つけました。それがB型肝炎の

HBs抗原です。私の上司の矢野先生の話では、ブルームバーグ博士は、もともとは血液内科の先生で、肝臓のことはほとんど知らなかったそうです。当初、ブルームバーグはオーストラリア抗原を白血球に関連した蛋白ではないかと考えたようです。その後、東大の大河内一雄先生が、輸血後に肝障害を起こした患者さんの血液の中に輸血後にオーストラリア抗原があることを見つけられました。

HBs抗原とHBe抗原と肝臓との関係の世界で初めて明らかにしたのは大河内先生です。私も大河内先生にお会いしたことがあるのですが、第一印象は、とても控えめな先生でした。ブルームバーグ博士の誕生日は7月28日であることから、その日を世界肝炎デーに

したのは大河内先生ですが、大河内先生も大きいので、日本としては大河内先生の誕生日である10月8日を日本肝炎デーにしてはどうかと私は思っています。

B型肝炎はたくさんウイルス

1964年：HBs抗原（オーストラリア抗原）の発見

B型肝炎ウイルス (hepatitis B virus; HBV) の同定は、1964年に Baruch Blumberg らがオーストラリア原住民の血清から『オーストラリア抗原』を発見したことに始まる¹⁾。1968年には、我が国の大河内一雄らによって、オーストラリア抗原と肝炎との関連が報告され²⁾、輸血用血液中 オーストラリア抗原のスクリーニングが行われるようになった。



Blumberg BS.

1) Polymorphisms of serum proteins and the development of isoprecipitins in transfused patients. Bull N Y Acad Med. 1964

1925年7月28日 - 2011年4月5日



Okochi K, Murakami S.

2) Observations on Australia antigen in Japanese. Vox Sang. 1968

1928年10月8日 - 2007年10月10日

写真は
矢野石人先生
石橋人海先生
から快写

図4

B型肝炎ウイルスマーカーの測定結果の意味

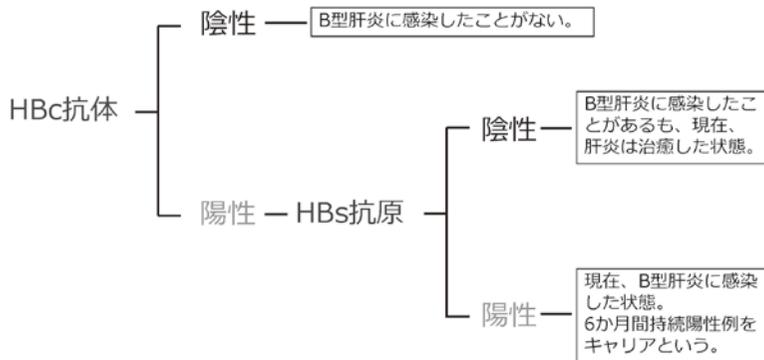
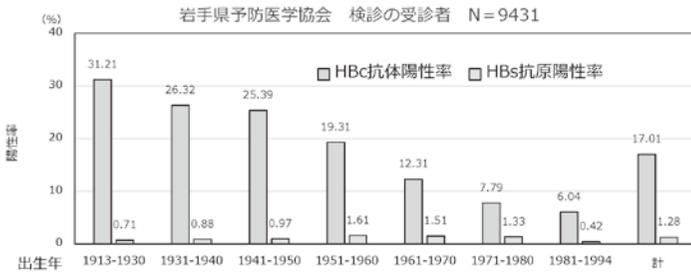


図5

マーカーがありますが、今日、ご理解いただきたいのはこの2つ、H B c 抗体とH B s 抗原です(図5)。H B c 抗体を測ってマイナスであれば、B型肝炎に感染したことはないこととなります。H B c 抗体が陽性だと2つのパターンがあつて、H B s 抗原が陽性なら、現在もB型肝炎に感染している状態だし、陰性だとB型肝炎に感染したことはあるけれど、現在は治っているという状態です。ここはしっかりおわかりいただきたいところです。

現在日本でB型肝炎に一度感染するも治った人はどれくらいいて、現在もH B s 抗原陽性の人はどれくらいいるについての令和2年の最近の田中先生研究班の報告です(図6)。対象数は9431人で、H B c 抗体の陽性率は全体では17%、H B s 抗原陽性率は1.28%でした。私は1950年代生まれですから、私の世代は161%のH B s 抗原陽性率で、私の同級生だと50

検診受診者を対象としたH B c 抗体陽性率とH B s 抗原陽性率の出生年別推移



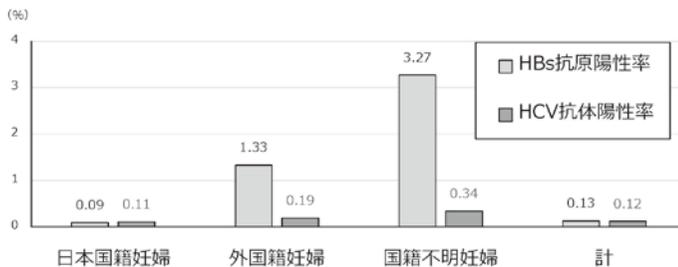
出生年	H B c 抗体陽性率	H B s 抗原陽性率	検査数	H B c 抗体陽性者数	H B s 抗原陽性者数
1913-1930	31.21%	0.71%	282	88	2
1931-1940	26.32%	0.88%	570	150	5
1941-1950	25.39%	0.97%	1847	469	18
1951-1960	19.31%	1.61%	2423	468	39
1961-1970	12.31%	1.51%	2250	277	34
1971-1980	7.79%	1.33%	1579	123	21
1981-1994	6.04%	0.42%	480	29	2
計	17.01%	1.28%	9431	1604	121

➡ HBV持続感染者は1.3%、一過性感染者は約16%

田中純子他 令和2年度厚生労働科学研究補助金報告書を元に作成

図6

国籍別にみた妊婦H B s 抗原検査/H C V 抗体検査結果 (2021-2022年)



	H B s 抗原陽性率	H C V 抗体陽性率
日本国籍妊婦	0.09% (281/320937)	0.11% (286/254279)
外国籍妊婦	1.33% (118/8875)	0.19% (13/6701)
国籍不明妊婦	3.27% (39/438)	0.34% (4/1193)
計	0.13% (438/331005)	0.12% (303/262173)

➡ 妊婦のH B s 抗原陽性者、H C V 抗体陽性者の頻度は千人に一人

田中純子他 令和5年度厚生労働科学研究補助金報告書を元に作成

図7

人に2人くらいいたのだと思います。私より年配の方のH B c 抗体の陽性率は31%、26%なので、3人か4人にひとりとは1度B型肝炎に感染していたということです。

B型肝炎の感染自体はそれほど稀なことではなく、また感染して全員が慢性化するわけではない病気ということが理解できます

作成したのですが、現在の妊婦さんどの程度、H B s 抗原陽性の方がいるかというグラフですが、日本人妊婦だと0.09%の頻度です。で1000人に1人しかいません

情報BOX

◆八王子肝友会

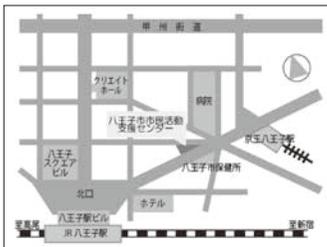
「何でも語り合おう」

出席者の近況や治療・薬剤等についての情報交換を行います。

日時 2月9日(日)10:15～12:00

場所 (最寄り駅)

八王子市市民活動支援センター



八王子市旭町12-1

JR中央線
八王子駅北口 徒歩約5分
京王線
京王八王子駅中央口 徒歩約3分

申込 不要、無料

問合せ 090-4122-6229 東(ひがし)

✉ yhigashi@com.zaqne.jp

会のHP 2次元コードまたは

<https://kanyukai802.blog.jp/>



東京肝臓友の会 事務局 冬期休暇のお知らせ

東京肝臓友の会事務局は、
12月25日(水)～1月6日(月)
まで、冬期休暇をいただきます。
FAX (03-5982-2151)
はお受けいたします。
よろしくお願いたします。



今号の表紙絵 (再掲載)

彦根城 佐和口多聞櫓

滋賀県・彦根市

NHKの大河ドラマの舞台にもなった国宝・彦根城。徳川の譜代、井伊氏三万石の居城で、城郭や天守閣をはじめ、旧藩時代の庭園や武家屋敷、長屋門、櫓など現存している。この佐和口多聞櫓は、直弼の青年時代の住まい(埋木舎)から観た位置で、左側が十七世紀初期建築の重要文化財、右側は復元された博物館になっている。中堀から二の丸に入る入口にある櫓で、昔は「佐和口門」という櫓門があり、左右の櫓は、門の上で続いていたという。今も路上に大きな門の基礎が残っている。

桜満開のこの彦根城は特に美しい。

切り絵と文 佐藤廣士

東京肝臓友の会 活動日誌

10月・11月

10月 電話 48件 メール 2件
11月 電話 44件 メール 1件

- 10/1 厚労省「宿泊施設向け接遇研修ツール作成等のための検討会」のための3団体Webミーティング、米澤
- 10/3 ユニプロフォート小川氏来訪、「東京肝臓のひろば」262号入稿、GSK Webミーティング、米澤
- 10/4 日肝協「肝臓のなかま」145号納品発送、山田
- 10/5 自己免疫性肝疾患部会、対面交流会、古川、山田、米澤
- 10/5 日肝協2022年度会計監査、山田、萩部、窪田、岡田、米澤
- 10/7 八橋研究班、厚労省面談今後について、及川、米澤
- 10/8 日肝協常任幹事会、GSK来訪、放送ラジオNIKKEI「大人のラヂオ」10月11日放送、ゲスト「かんノート」岸田徹さん収録米澤
- 10/9 日肝協2023年度会計監査、窪田、岡田、山田、萩部、米澤
3団体肝炎フォーラムWeb、川田、米澤
治験アンバサダー 修了者インタビュー収録 古川
- 10/10 「東京都肝炎コーディネーター交流会」Web打ち合わせ
- 10/11 第33回肝炎対策推進協議会、及川、加藤、米澤
「東京肝臓のひろば」262号校正原稿着
インクルージョンパートナー来訪、今後について、米澤
- 10/12 AMED Web報告会、聴講、古川、米澤
- 10/15 「東京肝臓のひろば」262号、校正出し、米澤
金子班班会議Web会議、佐賀大磯田医師、米澤
- 10/16 アフリカ実行委員会Web会議、
ラジオNIKKEI「大人のラヂオ」11/8放送分収録、ゲスト国立国際医療研究センター 清上雅史先生、及川綾子さん、米澤
- 10/17 ラディックス来訪、複合機等リースの件、米澤
- 10/15 宮川財団主催講演会相談会@宮川財団事務所、講師東京大学医科学研究所付属病院 病院長、四柳宏先生、米澤
- 10/18 GSK来訪、B型肝炎患者について懇談、米澤
- 10/19 偏見差別PT、@半蔵門B肝事務所、及川、加藤、米澤
12/23東肝主催医療講演会チラシ入稿、米澤
- 10/20 宮川庚子記念研究財団相談会、@宮川財団事務所、米澤
- 10/22 金子研究班班会議、古川、米澤
- 10/24 厚労省3団体面談、及川、米澤
- 10/25 奈良県肝炎医療コーディネーターフォローアップ研修会Web打ち合わせ、米澤
- 10/26 兵庫県スキルアップ研修会、@兵庫医大、講師、パネル司会、米澤
- 10/26 「東京肝臓のひろば」262号納品、発送作業
ラジオNIKKEI「大人のラヂオ」11/8放送分オープニングエンディング収録、米澤
- 10/30 東京都障害者福祉会館にてピア面談相談 米澤
虎の門病院肝疾患センター寺本氏、芥田先生、肝臓病教室Web打ち合わせ、米澤
- 10/31 日肝協常任幹事会、川田、古川、米澤、佐賀大学附属病院肝炎医療コーディネーター養成研修会、Web打ち合わせ、米澤
- 11/3、4 日肝協第34回代表者会議兵庫大会、幹事会、川田、野田、山田、萩部、古川、窪田、岡田、白井、米澤
- 11/5 奈良県肝炎医療コーディネーターフォローアップ研修会、パネルディスカッション司会、米澤
- 11/6 横浜市泉区難病講演会、患者会紹介、古川
- 11/7 虎の門病院「肝臓病教室」Web打ち合わせ、米澤
東京都令和7年度予算要望書回答、川田、甲賀、上大田、萩部、白井、米澤
- 11/8 BI レイサマリーWeb打ち合わせ、古川、米澤
治験アンバサダーWeb交流会、患者市民参画セミナー、古川
- 11/9 八橋研究班作業部会、米澤
- 11/10 虎の門病院、東京肝臓友の会共催「肝臓病教室」、甲賀、白井、米澤
佐賀県肝炎医療コーディネーター養成研修会打ち合わせ、米澤
- 11/12、13 佐賀県肝炎医療コーディネーター養成研修会パネルディスカッション収録、米澤
- 11/14 AZ来訪、共同企画会議、米澤
- 11/15 3団体偏見差別PT、加藤、及川、米澤
- 11/18 BI、レイサマリーレビューミーティング@BI古川、米澤
- 11/20 YORIAL Lab Web特別セミナー、聴講米澤
- 11/23、24 World Hepatitis Alliance主催「Hep Can't Wait East Asia Workshop」参加 米澤
IPSEN、意見交換会、古川
- 11/27 佐賀県江口病院ピアサポート外来、米澤
YORIAL Lab Web特別セミナー、古川聴講
- 11/29 「東京肝臓のひろば」263号入稿、米澤
P1クリニック来訪懇談、米澤
- 11/30 東京都障害者福祉会館にてピア面談相談 米澤

東京肝臓友の会主催 東京都委託事業

B型肝炎治療の今までとこれから ～核酸アナログ製剤と肝発がんについて～

日時

2025年 1月19日(日) 14:00～16:00

会場

田町グランパークカンファレンス 401ホール
東京都港区芝浦3-4-1

講師

千葉大学大学院医学研究院 消化器内科学
教授 加藤直也先生

申込

挟み込みチラシを参照

参加無料
定員100名

同病者による面談相談

☆肝臓病のこと、生活のこと、なんでも お気軽にご相談ください☆

日時: 1月30日(木) 3月30日(日) 12月はお休みです

13時30分～16時30分(1人1時間)

場所: 東京都障害者福祉会館1階 相談室

対象: 東京都在住、在勤の方優先

主催: 東京都

相談料: 無料(予約制)

相談員: 米澤敦子(東京肝臓友の会 事務局長)

申込方法

※電話でお申し込みください。

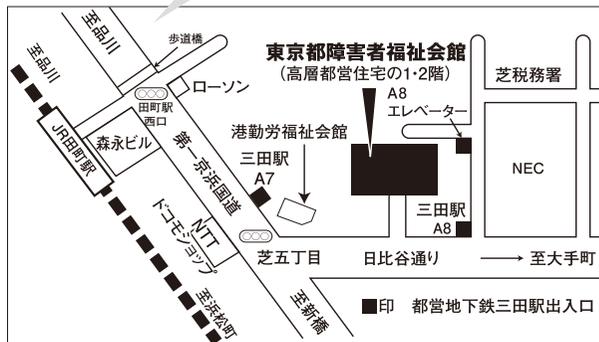
【申込先】都障害者福祉会館相談係

〒108-0014 港区芝5-18-2

☎ 03 (3455) 6321

【交通案内】

- ◆JR「田町駅」西口徒歩5分
- ◆都営三田線「三田駅」出口A8 徒歩1分
- ◆都営浅草線「三田駅」出口A7 徒歩1分



本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。